

## “津久井観音霊場巡り” その8 (最終)

8日目 (H19, 2007/07/09 月) 車にて

自宅 (am11:21 出発) (6.4 km) 第39番: 東林寺 (12.0 km) 第42番: 東光寺 (16.0 km)  
第43番: 福寿院 (16.0 km) 自宅 (pm16:00 着) 全走行距離 50.8 km 歩行距離 = 3.17 km

**今**日は観音巡り“満願成就”を目指し、打ち止め札所 43 番“福寿院”までを全て車で廻ることにした。最初の 39 番札所: 東林寺は葉山島の奥まった所

にあった。比較的広い境内には立派な弘法大師像も祀られており、落ち着いた雰囲気のお寺である。相模大地を葉山島の方から眺めるには、山裾ながら絶好のロケーションで、過疎の葉山島との印象をもっていたが、農業を営むにはとてもいい雰囲気の、湘南むべなるかなの集落に感じられた。

有難や施無畏の御手に  
すがりつつ弘誓の船に  
乗りて渡らん  
ありがたやせむいのみてに  
すがりつゝぐぜいのふねに  
のりてわたらん



### 第39番 東林寺(葉山島) 十一面観世音菩薩

小澤山東林寺(とうりんじ)。高野山真言宗。嘉禄元年(1225)開雄阿闍梨が開基とされる。本尊は行基作と云われる秘仏、薬師如来。古来よりこの地は、気候が温暖な事より湘南葉山と呼ばれる所である。古来より学業修行の道場として多くの偉僧を世に出す。「金剛流御詠歌」の道場を設けて真言宗の教義の宣揚と実践修行を行なっている。

**こ**こから、42 番札所“東光寺”を目指す途中で、財布を忘れていないことに気づき、一旦自宅に戻り出発しなおす。津久井の博多ラーメンで昼食し、名手橋を目指す。東光寺は、ウォーキングの途中に立寄ったことがあるが、無住のお寺である。狭いが素晴らしい吊橋“名手橋”を渡り、山を少し登った中腹に建立されている。駐車場がないため、近くの消防詰めに止めて歩くことにする。

観音の恵みを永久に  
東光寺湖水を鏡に  
心洗わん  
かんのんのめぐみをとわに  
とうこうじうみをかがみに  
こころあらわん



無住のお寺とはいえ、次の札所: 藤野の福寿院が兼務しているとのことで、ここからものすごく遠いのに、大変なことだろうと余計な心配をしてしまう。同じ宗派なので兼務となるのだろうか? そういえば、今日の3寺院

は何れも高野山真言宗であることに気づく。

東林寺の目の前には、名手橋から津久井湖、その向こうに津久井の山々が幾重にも重なっている素晴らしい眺めの所である。寺の下の桜が大きくなり過ぎて、多少視界をさえぎっているのが残念だが、地域の人々に守られている様子がうかがえるお寺に読経し、次の札所を目指す。

#### 第42番 東光寺(名手)

聖観世音菩薩

南海山東光寺(とうこうじ)。高野山真言宗。本尊は大日如来。阿闍梨真永和上により、文明年間(1469~1486)現在地に創建される。境外仏堂は「名手の薬師様」として有名である。この薬師堂では、名手地区の婦人達に依り、「数珠念仏」が行なわれている。寺は、第43番札所の藤野町篠原、福寿院が兼務し、相模川を見下ろす名手の高台に位置し、景観の良い霊場である。

ここから名手橋に戻らずに、狭い道を三井に向かう。幸い対向車が1台も来ないうちに三井に出ることができた。津久井湖の水が一段と下がった気がしていたので、三井のピオトープに寄り道する。釣船場でもある湖岸が見えてきて驚いた。湖岸がずーと干上がって、沖の方まで湖底が現れているではないか。湖底の中に何やらコンクリートの建造物らしきものも顔を出している。これは傍まで行くしかないと、ワクワクしながら近づき写真に収める。大きな土台らしきものは何の跡形なのか分からないが。



水際まで近づくと、急に泥の中に足を取られそうになる。やっぱり湖底には泥が相当溜まっているようで、うっかり湿った水際まで近づくのは危険のようだった。それにしても大きなハマグリのような貝殻が転々と転がっている。こんな貝が、津久井湖には住んでいるのだろうか。津久井湖に沈んでしまう前の痕跡は、みんな泥に埋まっているのか、何も見当たらなかったが、滅多に見られないであろう湖底にまで入れ、昔の津久井溪谷を中から少し感じることができた。

ピオトープを引き上げて、三井大橋の上から、左前方に大きく砂浜がはみ出しているのを見つけた。これも今のうちに行ってみようと降り口を探す。これも太井の釣船場のところから湖岸沿いに入ることができた。そこには津久井湖に沈む前の痕跡がはっきりと顔を出している。このあたりは荒川地域の高台だったのであろう。三井大橋側の水際は急に深く切り落ちている。大きな木の切り株と祠の鳥居、山門の土台のようなものが対になって立っていた。この上に狛犬のようなものが奉られていたのだろうか？ 多分、荒川村の鎮守様のような所だったのかもしれない。境内らしき砂利の後も白くそのまま現れていた。



ここにも大きなハマグリのような残骸が転がっている。この位置から見上げる城山は、今まで感じる以上の威圧感がある高さの山である。普段は水没している向かい側の出島のような小島は、何時の間にか陸続きの半島になっている（短い矢印部）。この釣り船場からは、先日発見した大蔵寺下の隧道トンネルが真向かいに見える（長い矢印部）。

三井大橋を真下から撮影するようなことは、釣り船に乗らない限り絶対に撮れない撮影ポイントであり、今日ここに偶然に立てることに感動しながら次に向かうことにした。

こからナビを入力し、打ち止めの札所、藤野篠原の43番“福寿院”を目指す。ピクニックランドの前を左に入り、うっそうとした杉林の道をひた走ると、右手に胡椒などを売っている三叉路に出る。それを直進するとすぐに篠原地区である。通りから離れていると考えていたので、細道に入りこみUターンするハメになるが、その通りの少し前方にお寺の石碑が見えていた。



#### 第43番 福寿院（篠原）

聖観世音菩薩

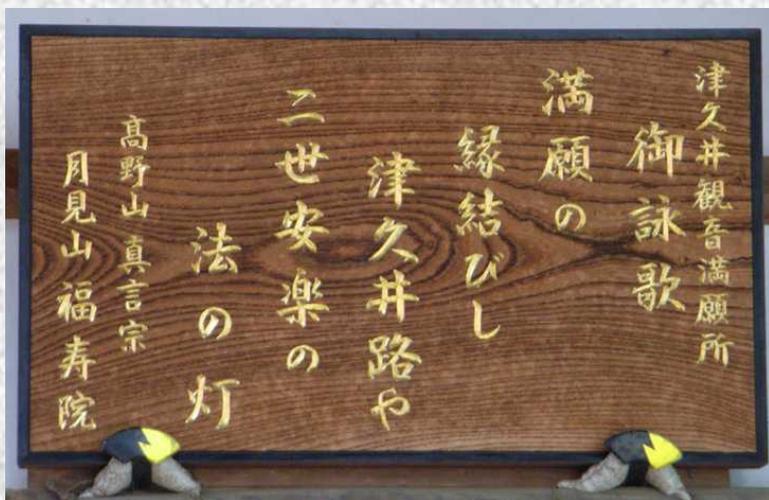
月見山福寿院(ふくじゅいん)、高野山真言宗。御本尊は阿弥陀如来。正応年間(1288~1293)真政阿闍梨により道志山中に阿弥陀如来を本尊として創建される。その後、300年を経て慶長の頃現地に移建された。現在の本堂は約250年前の建立といわれ、元禄4年造立の「弘法大師」が奉られている。近年鐘楼堂、庫裏等も完成し、境内が整備されている。

打ち止めの札所は落ち着いた雰囲気のお寺だった。本堂の脇には、聖観音菩薩像と弘法大師像が並んで奉られており、本堂に満願成就のお参りの後、こちらにも般若心経を読経してお参りをすませる。

本堂には、この寺のご詠歌と満願成就のご詠歌とが並んで掲げられていた。それにしても、人々が歩いてこの地まで訪れるのは容易ではないと思うが、札所最後の43番目札所ということで、感無量になりながら、43ヶ寺を無事にお参り終えたことに感謝しつつ帰路についた。

福寿院を3時に出て4時丁度に自宅に帰り着いたところで、津久井観音霊場巡りは、こうして無事に満願成就した。願わくは満願所ご詠歌のような気持ちで過ごしたいものである。

雲はるる法の御山の  
月見寺救世観音の  
誓い頼母し  
くもはるるのりのみやまの  
つきみてらくぜかんのんの  
ちかいたのもし



(津久井観音霊場巡り - その8 完結)

津久井観音霊場巡り 総歩行距離 = 137.6 km (車・バス移動距離は除く)